

じょうけい

真宗大谷派 至徳山 浄慶寺

とわの闇より救われし
身の幸なにくらぶべき
六字のみ名をとなえつつ
世のなりわいにいそしま

真宗宗歌



「善き人との出遇い」

浄慶寺住職 大塚 展彦

皆さま、いかがお過ごしですか。今回は、「あん」(主演:樹木希林)という「どら焼き屋」が舞台となる映画をもとに考えてみたいと思います。

寡黙な店主が営む「どら焼き屋」に、お手伝いをしたいと手の不自由な老婆が現れます。「ご高齢のお体にはきつい仕事ですので」と、断っていた主人でしたが、老婆のお手製のあんを食べると、それは、この上なく美味しいあんでした。

「このあんの作り方教えて下さい！」そこから店主の毎日が一変します。

老婆のあん作りは、小豆に話しかけたり、小豆の声に耳を傾けたり、感謝の気持ちを持って丁寧に作ります。これまでは、既製品のあんでしたが、手作りの餡に変えてから、みるみるお店は繁盛しました。しかしそれは東の間でした。心ない噂が広がったのです。

老婆はハンセン病の患者でした。またたく間にお客さんは減りました。その後、人知れず老婆は店を去りました。しばらくして主人に老婆から手紙が届きました。

「世間の無理解によって、つらい思いをする事の方が多いい日々ですが、あなたのお店で働く事ができた事、楽しくて仕方がなかった日々が忘れられません。」「私たちは、この世を見るために、聞くために、生まれてきた、だとすれば、何かになれなくても、私たちには生きる意味があるのよ」と綴られていました。

老婆に会う前の店主は、自分の過去やどうにもならない現状を、ただ単調に過ごすだけでした。それは、空しく過ぎる日々だったかもしれません。しかし、過去や自分の身の上は変えられなくても、ひとつの出遇いによって照らし出された日々は、かけがえのない一日を生きていると感じられる日々へと、また、ただ消費していくような日々から、自分自身や、周りの人の声を聞く日々へと転換されました。特別な何かになれなくても、生きる意味を見いだせる事に気づく事が出来ました。

店主と老婆の関係は、親鸞聖人の師である法然上人との出遇いと同じように感じます。

その出遇いとは、人の生きる世に光明を照らす人との出遇いです。

体験談

ーバトンは受け取ったよー

浄慶寺 門徒 藏ノ下博之



門徒の藏ノ下博之と申します。私が記憶している浄慶寺住職との思い出は、50年以上も前になります。それは私の母方の祖父が唐人町で小さな時計店を営んでいた時まで遡ります。

浄慶寺から唐人町商店街に向かって歩くと、小さな徳田時計店というお店がありました。

私の父が転勤族でしたので、当時は広島幼稚園に通っていました。

夏休みには、祖父が時計を修理している姿を見るのが楽しく、いつもお店に居ました。

ある時店番をしていると、長身で細身の御坊様が“徳田さんは居られるね？”と少しハスキーな声でお店に入ってこられる事がありました。

大塚覚先々代住職です。幼少期は可愛がっていただいた事を記憶しています。

年に数回お会いするだけでしたが、身近にお寺を感じていました。

祖父が亡くなった時、今でも鮮明に覚えている事があります。それは浄慶寺本堂での葬儀が滞りなく終わりかけた時に、ご住職が「徳田君が喜んでくれると思うので、一曲歌わせていただきます」と。

明治に作曲された水師營の会見という歌を朗々と歌われた事です。

その後、大塚淑子前住職にも唐人町の自宅に法要があればいつもお越しいただき、母敏子が祖父の門徒を受け継ぎ、数十年が過ぎました。

母敏子は2013年に脳出血で倒れ、2018年10月に亡くなりました。

母が倒れて、状況が読めない時に、介護やいつかは迎える死と葬儀。

わからない事ばかりで、私も家内もどうすればいいのか、不安な日々を過ごしていました。

ある時、ご住職の御顔が浮かび、「浄慶寺に行こう！」わからない事が沢山あること、どうすればいいのかとにかくお話を聞いていただこうと。

幼少期には身近にあったはずの浄慶寺がいつの間にか、自分自身の心の中で、疎遠になっていた事に気がつきました。

その後は、ご住職にいろいろと相談に乗っていただき、母の葬儀も祖父・祖母同様に浄慶寺本堂で行い、家族葬でしたが、大塚淑子前住職もご参列くださり、悲しみよりも喜びの多い葬儀でした。

そして母から確かに門徒というバトンを受取ったと感じた瞬間でした。

本堂で通夜・葬儀ができます

お寺本堂での通夜・葬儀を希望する場合は以下の手順です。

①お寺(住職)に、ご一報をお願いします。(住職携帯電話:090-2318-3268)

②下記の何れかの葬儀社に『浄慶寺の門徒です。本堂でお通夜・葬儀を依頼します』とお伝え下さい。

◇みんせい葬祭・福岡市博多区大博町(担当者:竹内)

092-271-7422(24時間受付)又は090-1342-0006(24時間受付)

◇お葬式のあおやぎ・福岡市早良区飯倉(担当者:龍相=りゅうそう) 092-865-4400(24時間受付)

※本堂でのお通夜の時間は、午後10時までと、させていただきます

※お寺での宿泊は出来ませんので、ご了承ください。

※お通夜のみ、自宅か葬儀社斎場での執行で、葬儀は本堂での執行も可能です。

真宗（大谷派・東本願寺）への導き

《第十三回》



お内仏(おないぶつ)とご本尊(ごほんぞん)

私たち真宗門徒の家では、ご本尊を安置した仏壇を「お内仏」と、いただてきました。毎朝、お仏供をお備えし、お明かりを点して、「正信偈」のお勤めをすることを、真宗門徒としての生活の中心としてきた伝統があります。

お内仏を安置するということは、「私たちの人生にとって、本当に大切にしなければならない尊いことは何か」と、いつも問いかけてくださる場を賜るということなのです。

私たちのお内仏の中央には、ご本尊として阿弥陀如来の御絵像が掛けられています。それは、色も形もない真実の”はたらき”である法身、つまり南無阿弥陀仏が、私たち人間にわかるような具体的なすがたとしてあらわれた形です。

では、この南無阿弥陀仏とはどのような仏さまなのでしょう。一言でいうならば、この私たちに、誰にも代わってもらわない「一人」として尊いのちをたまわって生きている事実を目覚め、空しくない人生を生きよ、と願いかけている仏さまといえるでしょう。

自己中心的で除災招福のみを願っていきっている私たちに、阿弥陀如来は、いただたいのちの尊さにめざめ、身の事実をひきうけて生きてほしいと、願いをかけておられます。

私たち真宗門徒は、その南無阿弥陀仏を本尊とし、帰依・礼拝して生活するのです。

親鸞聖人は、南無阿弥陀仏を本尊とする生活のうちに、

弥陀の五劫思惟の願をよくよく茶ずれば、ひひとえに親鸞一人がためになりけり。

されば、そくばくの業をもちける身にてありけるを、たすけんとおぼしめしたちける

本願のかたじけなさよ

(歎異抄より)

と、自らの身の事実をうなずかれました。

私たちは、南無阿弥陀仏の本尊の前に身をすえ、如来の本願の教えを聞くことにおいてはじめて、本尊を見失い、如来の願いにそむきつづけている自身の姿が明らかになります。

そういう如来の本願を依りどころとして生きる生活こそ「お内仏」のご本尊を中心にした真宗門徒の生活でありましょう。

出典：真宗大谷派宗務所冊子

ご本尊のある生活を

これまで真宗門徒のお宅では、お内仏(お仏壇)が安置され、ご本尊の前で日々お勤めをし、仏さまの教えを聞く生活が営まれてきました。

しかし、昨今の核家族化をはじめとする家族形態の変化や住宅事情の変化によって、特に実家を離れた方の家々では、お内仏が安置されることも少なくなってきたのではないのでしょうか。

そこで、結婚や一人暮らしなど、さまざまな理由で実家を離れていかれるご家族の方などへ、ぜひ、ご本尊をお手渡しいただき、「ご本尊のある生活」を、お勧めください。

※挿絵は、据置タイプですが、ほかに壁掛けタイプもあります。

必要な方は、住職にご相談下さい。



据置ご本尊



行事予定

- 盂蘭盆会法要 8月13日(木)~15日(土)
3日間とも10時から
- 秋の彼岸法要 9月22日(祝・火)
13時30分から
- 報恩講 11月14日(土)・15日(日)
両日とも13時30分から



文芸欄

※このコーナーに、川柳・短歌・俳句などを、お寄せください。

側溝でマナーを詫びる缶ひとつ

泥水を飲む子らも居てこの地球

生き生きて水に流せぬことばかり

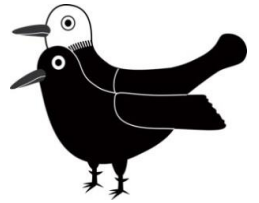
水源の滴が光る樵の森

川柳

山口由利子

坊守のついで

皆様こんにちは。先日テレビで「疫病が退散するヨゲントリ」の紹介を見ました。その鳥は、流行病を予言したそうです。その姿はカラスのような黒い鳥ですが、二つの頭があり、一つは白色をしています。予言の内容は、「来年の8月・9月のころ、世の中の人が9割方死ぬという難が起こる。」とあり、そして続けて「我らの姿を朝夕に仰ぎ、信心するものは必ずその難を逃れることができるであろう」と記されているそうです。



これは、市川村(現山梨市)の名主、喜左衛門が記した「暴瀉病流行日記」(山梨県立博物館所蔵)に、この鳥の予言と絵が描かれているそうです。

当時はコレラや水害で多くの方が亡くなられたそうです。それを何とかおさめようと現れた鳥なのでしょうか。

浄土真宗では「共命之鳥」(ぐみょうしちょう)という鳥が2つの頭を持つ鳥として知られています。法事の時などにお勤めされる『仏説阿弥陀経』に、浄土を象徴する6種類の鳥が出てきますが、そのうちの一只が「共命之鳥」です。次号では「共命之鳥」について書きたいと思います。

浄慶寺 坊守 大塚 麗



編集後記

新型コロナに気をつけて下さい。じょうけいで扱う記事の希望などのご意見を、お聞かせ下さい。

お盆にはご先祖に感謝の気持ちを

私たちのいのちは、量り知れない遠い過去からの、いのちが引き継がれて今ここにあるわけです。そのことを、思い起こすと、ご先祖があつて自分がいまここにある事に感謝の気持ちを懐き、ご先祖に想いをはせる良い時では、ないでしょうか。是非、次世代の方々もお誘いいただき、お参りください。お参りの折は、本堂に立寄られてご本尊さまに、ご参詣下さい。

住職よりお知らせ

2020年7月より浄慶寺が所属する「筑前西組」(福岡市 糸島市に所在する真宗大谷派17か寺)は、「筑前東組」(北九州市 戸畑区・八幡西区・八幡東区・若松区 宮若市に所在する13か寺)と合併し「福岡組」となります。

じょうけい 第13号

《発行》
真宗大谷派 浄慶寺 大塚展彦
浄慶寺門徒会 川嶋正實
〒810-0063
福岡市中央区唐人町3-10-49
《編集》
浄慶寺寺報編集担当 塩川大一

